



浮動産

土井 健史

アルミフレーム、蓄光プラチーン

建築は、人や自然や場所の関係をつむいでいる。

建築がある事で、出会いがあり発見がある。

しかし人は土地や不動産に支配され、建築という本来つむぐ場所が、
欲の象徴となっている。

建築が不動産から浮動産になり、土地の依存から解放されたら互いの
関係性を享受できる場所になるのではないだろうか。

風に揺れ、人の行為に揺れ、互いを感じるそんな存在に。